

**2月議会
本会議質問**

少人数学級の実現を 子どもの貧困対策でわしの議員が一般質問

3月5日開催の本会議での一般質問で、わしの議員は、子どもの貧困対策について質問しました。

県が設置した子どもの貧困対策検討会議が提案した「子どもが未来に輝く提言」は、基礎学力が身に付けられるよう指導の充実や基礎的環境づくりとして、義務教育における少人数学級の更なる充実を図ることを第一に掲げています。ところが、18年度の子どもの貧困対策には少人数学級の充実がかかっていません。

わしの議員は、「小中学校の少人数学級を拡充して、親の経済状況に左右されず、すべての子どもたち一人ひとりが、行き届いた教育を受けられるようにすべきだと考えます」と追及しました。県は、児童生徒数の減少が全国と比べて少ないことを理由に、「少人数学級実現のさらなる拡充のためには、多くの新たな教員の採用や教室の整備が必要となる」として、少人数学級の強化は国の制度化を待つて行うという答弁を行いました。

わしの議員は、「『子どもの貧困調査』を行い、検討会議委員から『教育の機会均等が必要』と提言が出されたにも関わらず、これまでどおりでは子どもに向き合う姿勢が不足している」と主張しました。



壇上で一般質問を行うわしの議員

の重要性を指摘しました。

18歳まで医療費無料化を

スクールソーシャルワーカーの拡充を

また、スクールソーシャルワーカーの拡充について質問しました。県は、「スクールソーシャルワーカー未配置の市町村に配置を働きかけるとともに、県立高校における支援・相談体制の一層の充実に努めていく」と答えました。

さらに、学習支援事業についても質問しました。わしの議員は、「学習支援事業は学習面だけでなく、親ともつながって生活支援やその世帯を支える大切ななもの」と訴えました。県は、「『子どもの学習支援事業』拡充のため、来年度5カ所増やして9町で実施する予定」と答弁しました。子ども食堂についても、「子どもにも親にとっても、かけがえのない大切な居場所であり、何よりの子育て応援だ」とそ

最後にわしの議員は、子どもの医療費無料化について、18歳までの医療費無料化について問い合わせました。わしの議員は、県内54自治体すべてが県基準を拡大して子ども医療費無料化を実施していることを示し「県として緊急に通院・入院とも中学卒業までの無料化をただちに実施すべきではないか」と追及しました。県は、「まずは、現行制度を維持することが課題だと考える。全国一律の制度となるよう国に働きかけていく」として、県独自の子ども医療費無料化の充実については後ろ向きの答弁でした。

再質問に立ったわしの議員は、「少人数学級については、順次、段階的に少人数学級を拡充することはできないか」とさらに質問しました。県は、「国の法制度化が不可欠。国に強く要望していく」と答弁するのみでした。（次号に続く）

